

図書館へいこう!

話題の新着本

『^{やみばら}闇祓』 辻村 深月／著

クラスになじめない転校生・要に親切に接する委員長・漑。しかし、そんな彼女に要は不審な態度で迫る。ヤバい行動を繰り返す要に恐怖を覚えた漑は憧れの先輩・神原に助けを求めるが…。



『^{ごほうにちにち}御坊日々』 島中 恵／著

明治20年、東京浅草の東春寺は、相場師も兼ねる僧侶・冬伯と弟子の玄泉が切り盛りしている。経営不振に悩む料理屋の女将・お咲が寺を訪れ、店に“幽霊”が現れたというが…。全5話を収録。



『^{おかしむかし}むかしあるところに、やっぱり死体がありました。』

青柳 碧人／著

竹取のシゲと幸せに暮らしていたかぐや姫。ある日、シゲの子分ヤスの家から出火し、焼け跡からヤスが刺殺体で…。『竹取探偵物語』をはじめ、日本の昔ばなしをミステリで読み解く作品集、第2弾。



『笑うマトリョーシカ』 早見 和真／著

圧倒的な魅力で、官房長官に上り詰めた青年代議士と秘書。彼らに違和感を持った女性記者が、隠された過去を暴くため、取材を重ねるが…。



『夜が明ける』 西 加奈子／著

どれだけ傷ついても、夜が深くても、必ず明日はやってくる。思春期から33歳になるまでの男同士の友情と成長、そして変わりゆく日々を生きる奇跡を描く。再生と救済の物語。



『らんたん』 柚木 麻子／著

大正最後の年。一色馬児は、渡辺ゆりにプロポーズした。彼女からの承諾の条件は、シスターフッドの契りを結ぶ河井道と3人で暮らすというもので。



『失われた岬』 篠田 節子／著

美都子の友人・清花が、北海道に転居後「岬に行く」と言い残し失踪した。20年後、ノーベル文学賞を受賞した日本人作家が「もう一つの世界に入る」と授賞式の前日に失踪し…。



『レインメーカー』 真山 仁／著

急患の2歳児の心肺が停止。慟哭する母。呵責に苦しむ父。医師の無念。糾弾される病院。医療過誤訴訟を闘う弁護士・雨守は、医療現場の矛盾や不条理に斬り込んでいく…。



『怖ガラセ屋サン』 澤村 伊智／著

「怖ガラセ屋サン」が、あの手この手で、恐怖をナメた者たちを闇に引きずり込む。一話ごとに「まさか!」の戦慄が走る、連作短編集。



今月のBEST本 (10月の貸出回数上位本)

『月曜日の抹茶カフェ』 青山 美智子／著

川沿いの桜並木のそばに佇む喫茶店「マーブル・カフェ」が、定休日の月曜日に、一度だけ「抹茶カフェ」を開くことに…。一杯の抹茶から始まる、東京と京都をつなぐ12カ月の心癒されるストーリー。



『養老先生、病院へ行く』 養老 孟司／著

自身の大病、愛猫の死-。養老孟司が医療との関わり方、病院嫌いの本当の理由、医療の限界と可能性、人生と死への向き合い方を、みずからもがん患者である東大病院の名医とともに語る。ヤマザキマリとの鼎談も収録する。

